

新年会記念俳句会優秀作品

平成十六年二月二日

入選

一、冬木の部

葉の落ちし 冬木色どる 豆電球

冬枯木 肩寄せ合ふ 雀ども

長谷川 晴生
永桶 栄資

二、菊の部

菊の香を 食し楽しむ 越後人^{びと}

鈴木 武

三、雪の部

読書する 雪しんしんと 窓の外

湯の先に 雪せまりくる 山の宿

雪の朝 一夜で帰る^{ひとよ} 子供たち

坪井 正康
滝口 恵介
鈴木 圀彦

四、小春日の部

小春日や 越後の冬の ゴルフかな

小春日に 遊ぶ子らの 声樂し

小春日や 猫もうたたね 吾が腕^{かひな}

坪井 正康
佐藤 秀夫
永桶 栄資

五、十二月の部

頼られて ぼったくられて 十二月

馬場 信彦

六、冬囲の部

冬囲 越後の庭は ミュージアム
冬囲 喜んでゐる 庭の木々
冬囲 雀集いて 会議中
冬囲 今年は役に 立つのやら

長谷川 晴生
馬場 信彦
丸山 征夫
佐藤 栄祐

選者吟

武藤昭三会員

雲光り 目路の冬木の 黒く見え
桃冬木 脚立踏まえて 徒枝を切る
をちこちの 車道を掘るや 十二月
栗岳の 雪のきらめく 日和なり
降る雪を 蹴りけりボール 飛び行けり

佳作

ひとときの 夕日を宿す 枯木立
厳しさや 冬木は凜と 道しるべ
初雪に 映す心の 白さかな
初雪や 喜ぶ稚児を 思い出す
長靴の 雪踏む音の 心地よし
波の華 雪舞い荒ぶすさぶ 日本海
子供たちの はしゃぐ雪なき 越の空
旅半ば そっと佇む 雪の町

田中 久作
馬場 信彦
熊倉 高志
野崎 正明
坪井 正康
羽賀 孝行
馬場 茂夫
大溪 秀夫

姿変え 庭の草木も 雪化粧

嘉瀬 修

四君子の 晩菊供えて 父母偲ぶ

渡邊 久晃

名湯を めぐる小春の 老二人

馬場 茂夫

冬囲 亡き父慣ひて 我と妻

永桶 栄資

日のさして 雨だれ落つる 寒の入り

嘉瀬 修